

Think & Imagine オリバー・ストーンと考える 未来の富山

メッセージ・感想紹介

- ◆戦争は人間をおかしくするものだという事を感じた。(10代男性、富山市)
- ◆「学び続ける」「日本が中立的な立場で平和な世界を築く努力が必要」という監督のメッセージが心に残った。(40代男性、富山市)
- ◆平和や戦争について学ばない限り、本当の平和を手に入れることはできないと思う。(10代女性、滑川市)
- ◆私の父が10歳で体験した富山大空襲のことを、今10歳になる娘に聞かせ、語り継ぎたい。(40代女性、富山市)
- ◆世界の情勢が大きく変わろうとしている今、自分に何が出来るか深く考えたい。(60代男性、黒部市)
- ◆「プラトーン」の公開当時は、善と悪の象徴として見たが、今回は現実を投影した映画として見た。戦争をしない選択をしていきたい。(50代女性、富山市)
- ◆符校だった父は戦後、一家の主として生計を立てることができず、家族が振り回された。若い人たちには二度と戦後を味わってほしくない。(70代女性、富山市)
- ◆監督が語った「同情ではなく共感」が国際秩序を守る基礎だと感じた。(10代男性、高岡市)
- ◆国と国との関係や思惑などを知ることができて良かった。最大の敵は人間の心の中にあると思う。(20代男性、富山市)
- ◆僕にとって平和とは友達と遊んだり、家族で仲良く幸せに過ごしたりすること。(9歳男児、富山市)
- ◆日本人が怠りがちなコミュニケーションや直接会って話をすることが、どれだけ大切か知ることができた。学校では教えてもらえないことを知ることができて貴重な経験だった。(10代女性、群馬県)
- ◆戦争の悲惨さや無意味さを次世代に伝えていくには、監督が話した「教育」が大切だと思った。まずは自分の身近な人や家族を大切にしたい。(50代女性、富山市)
- ◆映画を見て戦争はとも怖いと感じた。一日一日を大切にしたい。(10代女性、富山市)
- ◆刀を突き付けられたら突き返すような風潮は勇気をもって止めるべき。(50代男性、高岡市)
- ◆孫の未来も平和に生きることができるよう祈りたい。(70代女性、富山市)
- ◆もう争いはやめてみんなで平和の種をまきたい。(50代男性、氷見市)
- ◆私にとって平和とは「明日がある」と確認できること。(10代男性、富山市)
- ◆争いの悲惨さや不合理を省みて「共感」や「教育」で衝突を防ぐ取り組みが大切。(50代男性、魚津市)
- ◆日本や世界の平和のために、私ができることはとても小さなことだが、少しでも貢献できるように努めたい。(60代女性、高岡市)
- ◆戦争は遠くの話ではなく、いつ身近に起こってもおかしくない。他人事とせず、世界各地で起きている紛争にも目を向けたい。(40代男性、石川県)
- ◆富山大空襲は国内で起きた空襲の一つとしか思っていなかった。今の富山を思うと感無量。(60代男性、富山市)
- ◆もっと富山大空襲のことを発信し、平和都市としての発信をしていく必要があると思った。(40代男性、茨城県)
- ◆国家の大義が人を変えてしまう恐ろしさがある。どうやって平和を維持していくか考えたい。(40代男性、東京都)
- ◆すべての国々が核兵器をつくらず、持たない国になりますように。(60代男性、射水市)
- ◆未来の社会がどうあってほしいかについて想像することが大切。(50代男性、富山市)
- ◆8月1日が富山大空襲の日ではなく、単に花火大会の日になっている。新聞は富山大空襲特集して、もっと若い世代に伝えるべき。(50代男性、富山市)
- ◆亡き父が戦時中を思い出し、夜中にうなされてる姿を何度も見た。心の傷は一生消えない。(60代男性、富山市)
- ◆監督の作品から感じるメッセージが、個人へのメッセージとして受け取ることができた。自己概念が変わるほどの価値ある時間だった。(40代女性、東京都)
- ◆明日、無事に朝を迎えることのできる幸せと平和が失われた時の悲惨さをあらためて感じた。(60代女性、富山市)
- ◆本当の自分や生きていくこととは何なのかを考える映画だった。作品は、ただ戦争反対ではなく、人間性を訴えている点良かった。(50代女性、神奈川県)
- ◆監督が「教育の重要性」を一貫して語っていたことが印象に残った。(30代女性、富山市)
- ◆富山に生まれ育ちながら富山大空襲について深く考えたことがなかった。世界中で貧困の差ができないよう助け合いが必要だと思う。(40代男性、魚津市)
- ◆空襲も戦争も体験者が少なくなり、風化している現状は残念。証人として努力したい。(80代男性、富山市)

富山大空襲の被災者らから話を聞く(右から)ストーン氏とカズニック氏



ストーン氏 被災者の声聞く

市街地の99・5%を焼き尽くしたあの日、あの夜。夜空を焦がす紅蓮の炎の中で逃げ惑う人々は何を見て、何を思ったのか。「Think & Imagine」の開催に先立ち、オリバー・ストーン氏とピーター・カズニック氏が、富山大空襲の被災者の声に耳を傾けた。



坂倉ナミさん(91)
富山赤十字病院看護部長、富山医療大附属病院看護部長、富山県看護協会会長などを歴任。



中田 博さん(76)
戦後の原点を記録したいと、2016年に『あの日とコスモスとほくと〜富山大空襲の語り〜』を自費出版した。



須山盛彰さん(83)
富山近代史研究会理事、富山の学童集団疎開などを研究。

ストーン 富山大空襲の日のことをお聞きしたい。

坂倉 1945年8月1日、日本赤十字社富山支部の救護看護婦養成所の2年生だった私は病棟の宿直をしていました。2日未明、富山駅の方で爆音がしたため、逃げるように言われました。赤十字社まで爆撃されるのかと戸惑いましたが、人の多い繁華街

中田 大空襲の夜、母と2人の姉、兄、私の5人で逃げました。焼夷弾が降ってくる中、防空壕に入ろうとしましたが、土を盛っただけの簡易な造りでは熱に耐え切れないと思っただけは、市街地から南へ逃げようとした家族を急がせました。母が防空壕に逃げ込んだ姉を引っ張り出そうとする姿を今も思い出すことがあります。

カズニック 私の家族や親版はホロコースト(ユダヤ人大量虐殺)で亡くなりました。ドイツを憎んだこともありましたが、皆さんは終戦後、アメリカをどう思いましたか。

ストーン 戦時中、国民学校で軍国主義教育を受け、洗脳されましたが、中学に入った途端、民主主義になりました。憎む気持ちはまったくなくなりました。若い頃、アメリカでホームステイを経験しました。とても友好的に迎えてくれたことを覚えておきます。

坂倉 戦後、アメリカやヨーロッパの大学病院に派遣されて、看護の教育実習を受けました。皆さん、丁寧に教えてくださり、看護技術を高めることができました。

中田 当時の国がしたことを、悔しきは感じませんでしたが、本を作るため、アメリカの方に国立公文書館などでの資料収集に協力してもらいました。悔しみの再生産ではない

富山大空襲伝えたい

を避け、同級生2人と東の方へ逃げました。何度も立ち止まって機銃の位置を確認しました。気付けば、赤江川に架かる鉄橋の下に隠れていました。焼夷弾の燃える火で市街地の空は真っ赤。石炭を積んだ貨物列車が鉄橋を渡っていました。これに乗れば、自宅に帰れると、ふと思いつき、自費出版しました。

須山 富山市中心部から西へ逃げました。近づく大きな爆発音が聞こえたため、背負っていた赤ん坊が亡くなったんじゃないかと、いとも顔を合わせました。心配でたまりませんでした。

ストーン 物資難、食糧難の中で、日本は勝つと思っていましたか。

須山 負けるとは思っていませんでした。食糧難は精神

たか。富山は復興を果たし、繁栄しています。今の時代が命の犠牲の上に成り立っていること、無償の愛で復興に尽くした人たちがいたことを忘れてはいけません。

ストーン 戦争を繰り返さないよう、過去から学ぶことが大事です。平和を守るために戦争体験を語り継いでほしいです。